

【航行援助施設利用料 1】

RJTT (羽田) → RJCC (新千歳) (空港間距離 819.69km) 国内線

最大離陸重量 68.0t 消費税課税

※空港料金単価 RJTT : 38,800 円 RJCC : 3,700 円

※平成 30 年度運航 (2 年目の経過措置率 0.4)

///計算において、離陸分・着陸分として分けて計算を行います。

///本邦内空港→本邦内空港の飛行の場合、以下の区分けで算定調書に記載します。

- ・離陸分：空港料金 (離陸空港)
- ・着陸分：航空路料金 (陸上) + 空港料金 (着陸空港)
(航空路料金は着陸分に含めて計算を行います。)

□離陸分

①空港料金 (離陸空港 (RJTT))

空港グループ単価 × (最大離陸重量 / 50)^{0.7} × 1.08

→ 38,800 × (68 / 50)^{0.7} × 1.08

→ 51,967 円 (小数点以下切り捨て)

○当該飛行による離陸分の新航行援助施設利用料

51,967 円

●当該飛行による離陸分の旧航行援助施設利用料

0 円

☆経過措置に伴う離陸分の最終的な金額

旧航行援助施設利用料 - (旧航行援助施設利用料 - 新航行援助施設利用料) × 0.2

→ 0 - (0 - 51,967) × 0.4

→ 20,786 円 (小数点以下切り捨て)

□着陸分

①航空路料金 (陸上空域)

5,300 × (飛行距離 - 18.52) / 100 × (最大離陸重量 / 50)^{0.5} × 1.08

→ 5,300 × (819.69 - 18.52) / 100 × (68 / 50)^{0.5} × 1.08

→ 5,300 × 801 / 100 × (68 / 50)^{0.5} × 1.08

※ (飛行距離 - 18.52) の後、小数点以下切り捨て処理

運行情況実績調書には当該切り捨て後の金額を記載

→ 53,468 円 (小数点以下切り捨て)

②空港料金 (着陸空港 (RJCC))

空港グループ単価 × (最大離陸重量 / 50)^{0.7} × 1.08

→ 3,700 × (68 / 50)^{0.7} × 1.08

→4,955 円 (小数点以下切り捨て)

○当該飛行による着陸分の新航行援助施設利用料

①+②=58,423 円

●当該飛行による着陸分の旧航行援助施設利用料

122,644 円

※日告示 800km 超 1,670 円/t × 68t × 1.08 = 122,644

☆経過措置に伴う着陸分の最終的な金額

旧航行援助施設利用料－(旧航行援助施設利用料－新航行援助施設利用料) × 0.4

→122,644 － (122,644 － 58,423) × 0.4

→96,955 円 (小数点以下切り捨て)

◆本フライトにかかる料金(離陸分と着陸分の合計)

20,786 + 96,955 = 117,741 円

【航行援助施設利用料 2】

PHNL（ホノルル国際）→ RJAA（成田） 国際線

最大離陸重量 181.9t 陸上飛行距離 175.38km 洋上飛行距離 2041.64km

データリンク対応機 消費税非課税

※空港料金単価 RJAA：17,100 円

※平成 30 年度運航（2 年目の経過措置率 0.4）

///本邦外空港→本邦内空港の飛行の場合、以下の計算を行います。

・着陸分：航空路料金（陸上）＋航空路料金（洋上）＋空港料金（着陸空港）

①航空路料金（陸上空域）

$$5,300 \times (\text{飛行距離} - 9.26) / 100 \times (\text{最大離陸重量} / 50)^{0.5}$$

$$\rightarrow 5,300 \times (175.38 - 9.26) / 100 \times (182 / 50)^{0.5}$$

$$\rightarrow 5,300 \times 166 / 100 \times (182 / 50)^{0.5}$$

※（飛行距離－9.26）の後、小数点以下切り捨て処理

運行状況実績調書には当該切り捨て後の金額を記載

$$\rightarrow 16,785 \text{ 円} \quad (\text{小数点以下切り捨て})$$

②航空路料金（洋上空域）

13,000 円 ※データリンク対応機料金。洋上は飛行距離に関わらず一律料金。

③空港料金（着陸空港（RJAA））

$$\text{空港グループ単価} \times (\text{最大離陸重量} / 50)^{0.7}$$

$$\rightarrow 17,100 \times (182 / 50)^{0.7}$$

$$\rightarrow 42,244 \text{ 円} \quad (\text{小数点以下切り捨て})$$

○当該飛行による新航行援助施設利用料

$$\text{①} + \text{②} + \text{③} = 72,029 \text{ 円}$$

●当該飛行による旧航行援助施設利用料

$$207,700 \text{ 円}$$

☆経過措置に伴う最終的な金額

$$\text{旧航行援助施設利用料} - (\text{旧航行援助施設利用料} - \text{新航行援助施設利用料}) \times 0.4$$

$$\rightarrow 207,700 - (207,700 - 72,029) \times 0.4$$

$$\rightarrow \underline{153,431 \text{ 円}} \quad (\text{小数点以下切り捨て})$$

【航行援助使節利用料3】

RJAA（成田）→PHNL（ホノルル国際） 国際線

最大離陸重量 181.9t 陸上飛行距離 160.01km 洋上飛行距離 2065.16km

データリンク対応機 消費税非課税

※空港料金単価 RJAA：17,100円

※平成30年度運航（2年目の経過措置率 0.4）

///本邦内空港→本邦外空港の飛行の場合、以下の計算を行います。

・離陸分：航空路料金（陸上）＋航空路料金（洋上）＋空港料金（離陸空港）

①航空路料金（陸上空域）

$$5,300 \times (\text{飛行距離} - 9.26) / 100 \times (\text{最大離陸重量} / 50)^{0.5}$$

$$\rightarrow 5,300 \times (160.01 - 9.26) / 100 \times (182 / 50)^{0.5}$$

$$\rightarrow 5,300 \times 150 / 100 \times (182 / 50)^{0.5}$$

※（飛行距離－9.26）の後、小数点以下切り捨て処理

運行状況実績調書には当該切り捨て後の金額を記載

$$\rightarrow 15,167 \text{円} \quad (\text{小数点以下切り捨て})$$

②航空路料金（洋上空域）

13,000円 ※データリンク対応機料金。洋上は飛行距離に関わらず一律料金。

③空港料金（離陸空港（RJAA））

$$\text{空港グループ単価} \times (\text{最大離陸重量} / 50)^{0.7}$$

$$\rightarrow 17,100 \times (182 / 50)^{0.7}$$

$$\rightarrow 42,244 \text{円} \quad (\text{小数点以下切り捨て})$$

○当該飛行による新航行援助施設利用料

$$\text{①} + \text{②} + \text{③} = 70,411 \text{円}$$

●当該飛行による旧航行援助施設利用料

0円

☆経過措置に伴う最終的な金額

$$\text{旧航行援助施設利用料} - (\text{旧航行援助施設利用料} - \text{新航行援助施設利用料}) \times 0.4$$

$$\rightarrow 0 - (0 - 70,411) \times 0.4$$

$$\rightarrow \underline{28,164 \text{円}} \quad (\text{小数点以下切り捨て})$$